

第9期介護保険事業計画における主な取り組み（基本ロジックモデル）

実施事業 （アウトプット）

ヘルシーパーク構想
地域連携会議/地域福祉会議/連絡会
ケアカフェ
●住宅担当部局との連携
高齢者の住まい方・新たな介護サービスの検討（小規模多機能）
成年後見制度の周知
身寄りのない人の支援（生前・死後）
虐待の早期発見/虐待対応マニュアルの作成
要介護者名簿の整備
●災害時住民支え合いマップの作成
BCP計画/避難訓練
家族介護者リフレッシュ事業
介護者会（宅老所）
●介護用品の支給
訪問介護・デイサービス・宅老所・訪問看護の事業所運営/業務効率化
●お泊まりデイサービス
高齢者実態調査/家庭訪問
包括相談窓口の周知
●社会福祉士の確保
●民生児童委員との連携
協議体/地域ケア会議
●南部合同事業
認知症初期集中支援チーム
チームオレンジ
認知症サポーター養成講座
認知症講演会
オレンジカフェ
総合事業（訪問型）Aヘルパー/B住民主体/C保健師等/D移動支援
総合事業（通所型）Aおたっしゃクラブ/Bサロン/Cおたっしゃリハ
生活介護支援サポーター/B型運動指導士/フレイルサポーター養成
●軽度生活支援
●移動支援（村内）/村外医療機関受診移動支援
一般介護予防教室
フレイルチェック
高齢者の保健と介護予防の一体的実施
●ヘルス・ドック助成
給付適正化事業（ケアプラン点検等）
PDCAサイクル（各事業の計画及び実績評価）
人材確保/人材育成/人材教育

地域のサービス・支援の目標 （初期アウトカム）

在宅医療と介護が一体的に実施されている。
住まいがニーズに合わせて適切に提供されている。
高齢者の権利、利益が擁護されている。
災害、感染症発生時に備えられている。
介護に取り組む家族の負担が軽減されている。
地域で高齢者に必要なサービスが提供されている。
相談支援体制が整っている。
多様な職種や機関との連携による地域包括支援体制が構築されている。
認知症の予防と共生に向けた支援が行われている。
多様な生活支援ニーズに対応する支援が多様な主体から提供されている。
住民が社会参加する様々な場がある。
介護予防・健康づくりに向けたサービス・支援があり、住民が取り組んでいる。
過不足のない介護サービスが提供され、適正な給付が行われている。
PDCAサイクルによって介護保険事業の立案と運用が行われている。

介護保険事業の方向性 （中間アウトカム）

要介護状態になってもその状況に応じた適切なサービス・支援を受けることができ、可能な限り、居宅での暮らしを継続できる。

高齢者が、社会とのかかわりと持ち、要介護状態等となることの予防・軽減・悪化の防止ができる。

介護保険事業の持続可能性が確保されている。

目指す姿 （最終アウトカム）

そのために

高齢者が役割を持ち、住み慣れた地域で最期まで自分らしい暮らしを続けることができる。

だからこうなる